

助動詞 「つ」「ぬ」

◇活用

基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
ぬ	つ	て	て	つ	つる	つれ
な						
に						
ぬ						
ぬる						
ぬれ						
ね						

◇接続

「つ」「ぬ」はともに連用形接続になる。

◇意味

① 完了 「～た」

：動作・状態がすでに終了していることを表す。下に「過去」の助動詞を伴うことが多い。

例) 五年六年のうちに、千年や過ぎにけむ、かたへはなくなりにけり。(土佐日記)
(五、六年のうちに、千年が過ぎてしまったのだろうか、半分はなくなっていた。)

② 強意 (確述) 「きつと～」

：語句などを強調する役割を持つ。下に「推量」の助動詞を伴うことが多い。

例) くちをしきこと多かれど、え尽くさず。とまれかうまれ、とく破りてむ。
(残念なことが多いけれど、全部を書きつくすことはできない。とにもかくにも、早く破いてしまおう)

※ テキストによって3つ目の意味として「並列」が記載されていますが、ほぼでないの気にしなくて大丈夫です。

◇「ぬ」の識別

① 打消の助動詞「ず」の連体形

→ 未然形形接続なので、上の語の活用形で判断。下が体言のことが多い。

② 完了・強意の助動詞「ぬ」の終止形

→ 連用形接続なので、上の語の活用形で判断。

下に「過去」の助動詞が統ければ「完了」、「推量」の助動詞が統ければ「強意」と判断する。
どちらも下に続いていない場合は文脈から(動作が完了しているかどうか)判断する。